社会科＜中学校第３学年＞

北九州市立東谷中学校
教諭　阿　部　一　郎

Ⅰ　中学校社会科における研究構想

自らの考えをもって表現し、よりよい解決を図る授業の創造

＜表出させたい子どもの姿＞

公民的分野における学習において、課題に対して、仕組み図や統計グラフなどの諸資料を適切に活用して調べたことを基に自分の考えを構築する。そして、その考えを具体的な根拠を示しながら説明し、他者と意見交換しながら多面的・多角的に考察し、社会的事象の意義や役割、相互の関連について考えを深めたり新たな考えを創ったりする姿。

「考えたことを表現する力」の高まり

自らの考えを表現する言語活動の充実

＜手だて１＞
課題解決に有用な情報を選択し導き出した考えを、友達と意見交換する活動

＜手だて２＞
成果物を作成して、互いに視点に沿って考察して考えを深める活動

考える力の深まりを自覚する振り返り活動の場の設定

＜手だて３＞
他者と意見交換を行う中で加筆修正して創り出した考えを通して、思考の広がりや深まりを振り返る場
（ワークシートや成果物における自己評価の位置付け）

【実態】　課題解決のために、関連のある資料を活用して考察しながら事実をとらえ自分の考えをもてるようになってきた。また、調べて分かった事実を基に自分の考えを適切に伝えることもできる。しかし、社会的事象の意義や役割、相互の関連について、様々な条件や要因によって考察したり、多様な角度やいろいろな立場に立って考えたりする経験が少ないため、多面的・多角的に考察する力が十分育っていない。そのため、表現する内容が一面的であり、説得力に欠ける。

子どもの「考えたことを表現する力」の実態

Ⅱ　研究の実際

１　単元名　「わたしたちの暮らしと経済（１）消費生活と市場経済」

２　単元設定の理由

○　本学級の生徒は、第一学期に公民的分野の単元「わたしたちの暮らしと民主政治（１）民主主義と選挙」で、「日本の選挙制度の現在の課題について調べ、民意を生かす選挙について考えよう」という課題を追究し、日本の選挙制度のしくみ、選挙は主権をもつ国民の意思を政治に反映させるための主要な方法であること、また、一票の格差や若者の投票率の低下などの課題を抱えていることを学習した。その際、「２０代の投票率を上げるために最も有効な手だては何か」について、選挙に行かない人たちの理由のアンケート結果や既習の学習を基に意見交換を行い、選挙に参加することの重要性について理解を深めた。このような学習を通して、生徒は、社会的事象について資料から読み取った事実を基に自分の考えをもつことができるようになってきた。しかし、その考えは一面的であることが多かった。

○　本単元は、今日の経済活動に関する諸問題に着目し、身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また、生産や金融の仕組みや働きを理解させるとともに、社会における家計・企業・政府のそれぞれの役割と責任について考えさせることをねらいとしている。本単元を展開するに当たって、生徒が興味・関心をもって経済活動を学習できるように、身近な事例や生徒の生活実態に即した事例を基にして、学習を展開するようにする。本時に関しては、クレジットカードを主教材として取り上げる。クレジットカードは、契約に基づく信用経済の一例で、現代社会で行われている経済活動の仕組みを具体的に理解できる教材であり、国民に広く利用されているということ、生徒全員がカードを使用して買い物をしているところを見たことがあるということから、生徒にとって身近な教材であると考える。クレジットカードは、２００８年には、その発行枚数が３億２０００万枚を超え、取扱高は約３５兆円で右肩上がりである。その保持数については、大人１人あたり３枚以上はもっている計算となる。しかし、その使用にともなうリスクも有しており、便利に使用できる一方で無計画な利用で返済不能となり、自己破産の件数が増加する原因にもなっている。このような問題に直面しないために、利用者として必要な知識を身に付け、取り扱いについての適切な判断力を育てなければならない支払い手段である。

　また、資料から読み取った事実を基に根拠を示しながら意見交換をする、自分がどのように活用していくのか、自分の考えを書いて説明するといった言語活動を仕組むことにも適した教材である。

○　指導に当たっては、課題把握の段階で、経済は「お金」のどのような動きから始まっていくのかについて調べ、「家計」「企業」「国や地方公共団体」の経済活動を知り、その働きと結び付きをまとめていく。その中で、経済を動かす三つの主体が、自分たちの暮らしとどのように関わっているのかを予想させることで、今後の学習への問題意識を高めることができると考える。

　課題追究の場面では、まず、身近にある消費活動について取り上げ、その経済主体は、自身の生活をよりよくするための家計であることを学ぶようにする。家計の役割を財やサービスなどの供給と消費や支出の関わりから正しく理解させ、様々な支払い方法について話し合い、特にクレジットカードの仕組みと働きについて調べさせるようにする。

　本時では、まず、「クレジットカードの支払いの仕組み図」を基に仕組みについて調べるようにする。次に、仕組み図や生活の中で見聞きしたことを基にして、クレジットカード払いの利点と問題点について話し合い、その両面をつかませるようにする。

　そして、「クレジットカードの使用を人に薦めるとき、使用についてどのような取扱説明をするのか」という発問を投げかけ、本時で調べて分かったクレジットカードの利点と問題点の両面から自分の考えをもたせるようにする。

「カードの利点と問題点について話し合う活動」といった一次的な事実認識の活動から、更に「カード使用を人に薦めるとき使用についてどのような取扱説明を具体的にするか」という生徒がやりがいを感じ、達成感、有能感を味わうことができるような二次的な学習課題を与え、自分の考えを書いて説明する活動を設定していく。これらの活動は、本研究のテーマである「自らの考えをもって表現し、よりよい解決を図る授業の創造」にとって価値ある言語活動と考える。

次に、価格の決まり方や需要と供給の関係を追究する。そこでは、市場経済を踏まえながら、消費者がよりよい選択をするために、限られた資源をどのように使うのかといった考え方を学んでいく。そして、生産の役割を担っている様々な企業を取り上げ、株式会社の仕組みを学び、企業の資金調達の面から直接金融と間接金融の在り方や銀行を中心とした金融機関の役割を学ぶ。さらに、政府の経済活動について、財源確保（税収）と配分（支出）という観点から、財政の役割と税金の意義についてとらえさせる。

課題解決の場面では、課題について「家計」「企業」「国や地方公共団体」のそれぞれをコンセプトマップにまとめる。その際、これまで学習した事象をキーワードとしてマップ上に挙げていくと同時に、事象同士のつながりの意味を矢印や線で簡潔にまとめ、それを基に説明し、事象間の関連性を表現できるようにする。

考える力の深まりを自覚する振り返り活動の場として、授業の事前や導入段階で、自らの考えをワークシートに記入させる。そして、グループや全体での意見交換において、新しく生まれた考え、詳しくなった考え、変わった考えをそのワークシートに赤ペンで書き加えさせる。また、授業の終盤で、深まった考えを活用して更なる課題に対して自分の考えを書かせ、発表し合わせたりする。このような場を設定することで、自分の考える力の深まりを自覚できると考える。

これらの学習活動を通して、問題解決を目指して資料を活用して自分の考えをもち、その考えを基に意見交換をすることを通して、多面的・多角的に社会的事象を考察できる力を育成したい。

３　単元の目標

社会的事象への 関心・意欲・態度　【関】	○　個人の消費生活に対する関心を高め、それを意欲的に追究している。また、今日の経済活動に関する諸問題に着目し、個人の経済活動について考えようとする。
社会的な 思考・判断・表現　【思】	○　消費者には、自らの利益の擁護及び増進のために、自立した消費者となるよう努めなければならないことやどのような経済活動や消費者行政が行われているのかについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。
資料活用の技能　【技】	○　個人の消費生活に関する資料を様々な情報手段を活用して収集し、収集した資料の中から、経済活動の意義や市場経済の基本的な考え方などについての学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりできる。
社会的事象についての 知識・理解　【知】	○　経済活動の意義が人間の生活の向上にあり、経済は生活のための手段に他ならないことや市場経済においては、企業や個人は価格を考慮しつつ何をどれだけ生産・消費するか選択していること、市場経済においては、価格には人的・物的資源を効率よく配分する働きがあることを理解し、その知識を身に付ける。

４　指導計画（総時数８時間）

主な学習活動・内容	指導上の留意点（○）と自らの考えを表現する言語活動の充実（◎）	主眼についての評価 （評価方法）
1　経済活動は、どこから動き出すのかについて、身のまわりにある「お金」の動きから考える。	○　経済の三主体をとらえながら、自分たちの暮らしと経済活動とのつながりへの関心を高めさせる。	○　身のまわりにある「お金」の動きから、個人の消費生活や企業の生産活動に対する関心が高まっている。 （発言分析、ノート分析）　【関】
2　家計の役割を財やサービスの供給、消費や貯蓄との関わりを中心に考える。また、商品を購入する際の様々な支払い方法について話し合う。	○　家計の役割を理解しながら、消費と貯蓄の関わりから、消費の内容を正しく選択することの意義について考えられるようにする。また、商品の購入には様々な支払い方法があることを話し合い、興味・関心が高まるようにする。	○　家計における消費内訳の推移から、家計の消費活動の変化を社会の様子と関連付けながら考察し、説明している。 （発言分析、ワークシート分析） 【思】

3　クレジットカードの利点や問題点について話し合い、自分の生活に合った適切な支払い方法の選択について考える。　【本時】	○　支払い手段の仕組み、利点や問題点について調べ、調べて分かったことを基に適切な支払い方法について考えさせ、無理のない消費生活について自分の考えが深まるようにする。 ◎　「クレジットカードの仕組み図」「自己破産件数のグラフ」を基に利点と問題点について意見を出し合ったり、商品の購入をする際に、利点と問題点を考えながら、どのようにそれを利用するか取扱説明書を作成させ説明したりさせるようにする。	○　クレジットカードの仕組みや役割について、利点や問題点を関連付けながら考察し、根拠を明確にしながら説明している。 （発言分析、ワークシート分析、取扱説明書分析）　【思】
4　経済活動には、信用が大切であることに気付き、消費者の安全や権利を守るための法律や制度が定められていることを理解する。	○　身近な消費者問題を考え、それらに取り組む様々な消費者行政を踏まえながら消費者の自立や契約について考えられるようにする。 ◎　「製造物責任法（ＰＬ法）」「クーリング・オフ制度」「消費者契約法」などの言葉を使い、消費者の四つの権利と関連させながら、消費者を守るための制度について考え説明する。	○　身近な消費者問題から、消費者の四つの権利や消費者基本法、消費者庁設立などの消費者を守る法律や制度に対する取組を考察し、説明している。 （発言分析、ワークシート分析）　【思】
5　自分たちの生活と流通との関わりに気付き、流通の仕組みを理解する。	○　流通機構の変化と発展における長所と短所を考え、それらが与える自分たちの生活への影響を理解させるようにする。	○　オンライン・ショッピングの仕組みやＰＯＳシステム、ＧＰＳによる輸送管理システムなど、流通経路に関する資料から、流通機構が多様化していることを読み取っている。 （発言分析、ノート分析）　【技】
6　身近な生活から、市場における商品の価格の決まり方について具体的に考える。	○　消費の価格の決まり方や需要と供給の関係を踏まえながら、市場経済の仕組みを理解させるようにする。	○　需要と供給の関係から、均衡価格の決まり方を踏まえながら、市場メカニズムの仕組みについて理解し、その知識を身に付けている。 （発言分析、ノート分析）　【知】
7　市場が機能するためには、競争の役割が必要であることを、主な価格の種類を踏まえながら考える。	○　財やサービスの種類によっては、市場メカニズムに適さないものがあることを理解し、その理由を考えられるようにする。	○　市場メカニズムが効率的に働く条件や制度、公共料金に公平な供給が求められる理由を考察し、説明している。 （発言分析、ノート分析）　【思】
8　「家計」「企業」「国や地方公共団体」のそれぞれの関係をコンセプトマップにまとめる。	○　「家計」「企業」「国や地方公共団体」のそれぞれをコンセプトマップにまとめさせることで、経済の三主体の関連性について理解できるようにする。 ◎　これまで学習した事象をキーワードとしてマップ上に挙げていくと同時に、事象同士のつながりの意味を線や言葉で簡潔にまとめ、それを基に説明し、事象間の関連性を表現できるようにする。	○　市場経済の基本的な考え方や仕組みや役割について理解している。 （発言分析、コンセプトマップ分析）　【知】

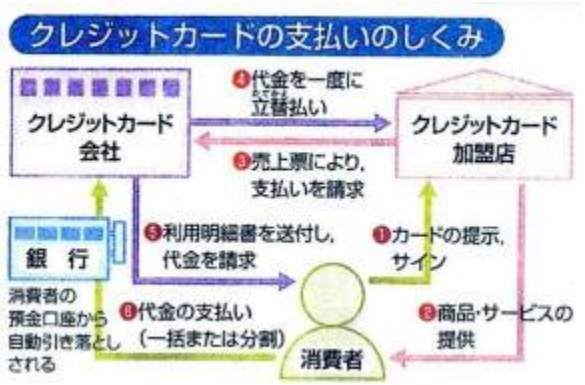
５　指導の実際と手だての考察

「自らの考えを表現する言語活動の充実」＜手だて１＞＜手だて２＞、「考える力の深まりを自覚する振り返り活動の場の設定」＜手だて３＞について

○　主眼

クレジットカードの支払いの仕組み、利点や問題点について話し合ったり、「クレジットカードの使用を人に薦めるとき、どのような取扱説明をするか」という課題について自分の考えを取扱説明書に整理し説明したりする活動を通して、将来の消費の主体（消費者）として、無理のない消費生活を営むための考えを利点と問題点から深めることができるようにする。

○　本時の展開

	学　習　活　動　・　内　容 ☆自らの考えを表現する言語活動	○指導上の留意点＜自らの考えを表現する具体的な手だて＞ ★考える力の深まりを自覚する振り返り活動の場 ◇主眼についての評価
導入	1　グラフ「クレジットカードの発行枚数と取扱高の推移」を基に、クレジットカードの取扱状況について知り、本時のめあてを設定する。 ＜グラフから分かったこと＞ ・　発行件数と取扱高が全体的に増加している。 ・　発行件数 3.2 億枚（2008 年） ・　取扱高約 35 兆円（2008 年） ・　大人一人当たり 3 枚以上保有している。	○　クレジットカードによる支払いへの興味・関心を高めるために、クレジットカードの発行枚数や取扱高の推移について調べる。 【クレジットカードの発行枚数と取扱高の推移】 ○　クレジットカードの発行枚数や取扱高の増加の様子を基に、本当に便利なカードなのか、どんな仕組みなのかと問いかけ、自分たちがよく説明できないことに気付かせ、本時のめあてを設定するようにする。
	〔めあて〕 クレジットカードは、本当に便利なカードなのだろうか。	
展開	2　クレジットカード払いの仕組みについて、仕組み図を基に調べる。 ＜仕組み図から分かること＞ ・　カード会社は、加盟店の売り上げの数%の手数料や年会費を受け取る。また、消費者が分割払いをしたときの利息が入る。 ・　消費者は、一括、分割、リボルビング払いを選択できる。利息や年会費を払う。 ・　加盟店は、クレジットカード会社から一度に立替をしてもらえる。取り立てはカード会社が受け持つ。 3　クレジットカード払いの利点と問題点について話し合う。 ☆　クレジットカード払いの利点と問題点について個人の考えをまとめ、それを基にグループや学級全体で話し合う活動	○　仕組み図を基に、「消費者」「カード加盟店」「クレジットカード会社」の三者の働きや相互関係が具体的に調べられるようにする。また、消費者は、カードを使用すると様々な支払い方法を選択できることにも気付かせるようにする。 ○　クレジットとは、「すべて利用者の信用に基づく借金である」ということ、また、「買った当時はカード会社が立て替えているけれど、後で自分が払いますという契約であること」に触れるようにする。 ○　教師が「一括払い」「分割払い」「リボルビング払い」の補足説明を行う。  【クレジットカードの支払いの仕組み】

＜クレジットカード払いの仕組みや意味について利点と問題点の両面から考え、話し合う活動＞

○　「消費者」の立場に立って利点と問題点について考えさせるようにする。考える際には、「仕組み図」や生活の中で見聞きしたことを基に考えるようにする。

○　ここでの言語活動は、①から③の学習形態で行う。

①　個人で考える。

②　グループで話し合う。

展開

【Ａグループの話合いの様子】

Ｃ１「現金がなくても後払いで買い物ができるところが利点だね」
Ｃ２「しかも、支払い方法を自分で設定して、月々の支払額の計画ができたり、ボーナス払いを見越して支払いできたり自分の思うとおりに支払いができるものね」
Ｃ３「そうなの」
Ｃ２「でも、支払い回数が多くなると利息が大きくなったり、カードは年会費がかかったりして、現金払いより余計なお金がかかるよ」
Ｃ４「それに、無計画に買い物をして、お金を使いすぎる可能性もあるよ」
Ｃ２「それは支払いの仕組み図の中にも出てきたね」
Ｃ３「利息や年会費は、カード会社によってちがうのかな」
Ｃ４「そうだよ。テレビで見たけれど、カードの暗証番号を知られると勝手に使われることがあるそうだよ」
Ｃ３「どんな時に暗証番号が他の人に知られるの」
Ｃ２「ＡＴＭを使うときに、暗証番号を覗き見られるって聞いたことがあるよ」
Ｃ１「こわいね。暗証番号を入力するとき、周りに気を付けていないといけないね」

③　全体で話し合う。

○　個人でクレジットカードの利点と問題点について考え、その後、少人数のグループで、そして、全体でというように学習形態を変えて話合いをもつことで、利点と問題点について自分の考えが広がるようにする。

○　他者の意見を聞く際は、メモを取りながら意見交換する。その際、他者の意見で「なるほど」と思うものがあれば自分の考えを書いたワークシートに書き加えたり、自らの考えを修正したいような意見があれば赤ペンで修正したりして、考えの広がりが見取れるようにする。

○　自分やグループで考えた利点と問題点が明確に表現できるように、個人で考える場面から、利点と問題点について対比して書き込みができる表が載ったワークシートを準備する。グループには、それを拡大したものを与えるようにする。

○　自己破産の内容を理解し、問題点を考える。自己破産の意味、件数の変化や生活への影響について正しく知らないと思われるので全体で「自己破産の件数」と「クレジットカードの発行枚数と取扱高の推移」のグラフを見比べ、発行枚数や取扱高にともなって自己破産件数も増えていることに気付かせるようにする。

４　「クレジットカードの使用を人に薦めるとき、どのように取扱説明をするか」という課題について、説明の仕方を考え、取扱説明書を作成する。

☆　クレジットカードの利点と問題点を基に、取扱説明書を作成する活動

＜利点と問題点を具体的に取り入れながら、無理のない消費生活を営むための取扱説明書を作成する活動＞

○　ワークシートに載せた取扱説明書のコーナーには、次のようなルールに従って、自分の考えを記入させるようにする。
　①　書き出しは「クレジットカードは、～できます」とし、本時で学習した利点の中から自分が重要視する点を１、２個選択して書く。
　②　次に①で取り上げた点に沿って、問題点について記述する。
　③　最後に、使用するときの留意点について書く。

○　このような条件に従って文章を作成させることにより、利点と問題点の両面から自分の消費生活の仕方を考え、説明できる生徒を育てることができると考える。

○　取扱説明書の解説を隣の友達に聞いてもらい、説得力があるかどうか評価してもらうようにする。

【取扱説明書の解説を友達に聞いて
もらっている様子】

Ｃ１「取扱説明書を読むね。『クレジットカードは、買い物額が大きいときは持ち運びが楽になり、また、支払うときは分割払い、リボルビング払いができます。でも、使い過ぎたり、利息がついたりして払えなくなって自己破産することもあります。だから使用するときは、支払い方法をよく理解して、無理のない買い物をする必要があります。』何か訂正した方がいいところがあるかなあ」
Ｃ２「そうだね、『支払い方法をよく理解し』のところをもっと具体的に書いた方がいいと思うよ」
Ｃ１「分割の仕方で利息のかかり方が違うとかだね」

＜評価の観点＞
- **①利点②問題点③使用上の留意点が関連し合っているか。**
- **③の留意点に無理のない消費生活を営むための自分の考えが言えているか。**

○　説得力がないときは、聞いてもらった友達や先生からアドバイスをもらい、赤ペンで修正を加えるようにする。

終末

5　本時のまとめと振り返りをする。

〔まとめ〕
　クレジットカードは、利点と問題点をもつカードである。使用するときは、その両面を考えながら、自分の家計に合った使い方をしなくてはならない。

◇　無理のない消費生活をするために、クレジットカードの利点と問題点の両面からクレジットカードの使用について考えることができている。
（発言分析、ワークシート分析）【思】

★　考える力の深まりを自覚する振り返り活動の場

○　事前のアンケートの回答の内容とクレジットカードの使用を薦めるときの説明の内容を比べさせ、自分の考えが深まったところをワークシートに書かせるようにする。また、なぜ深まったのかその理由についても記述させるようにする。

＜生徒に自覚してほしい考える力を深める有効な手だて＞
- **利点と問題点の両面からクレジットカードの意義や役割について考えたこと**

＜手だて１＞について

本時の学習活動３において、仕組み図やこれまでの生活の中で見聞きしたことを基に、クレジットカードの利点と問題点について表にまとめながら話し合う言語活動を取り入れた。この言語活動を取り入れることで、利点と問題点について生徒からより多くの視点から引き出したいと考えた。

《個人で考えたクレジットカード払いの利点と問題点》

利　点	問題点
①　現金がなくても買い物ができる	①　お金を使いすぎる

《グループの話合いで導き出したクレジットカード払いの利点と問題点》

利　点	問題点
・現金がなくても買い物ができる ・持ち運びが便利 ・支払い方法を選択できる ・複数のカードが使える ・ポイントが付き得点がある	・支払回数が多くなると利子が高くなる ・加盟店でしか使えない ・会費を払わなくてはいけない ・カードをどのくらい使ったのか分からなくなる ・暗証番号を知られると悪用されるときがある

【資料１　生徒Ａのワークシート】

生徒Ａは、生活と結び付けながら、個人で考える場面では資料１のように「現金がなくても買い物ができる」という利点とそれによって「お金を使いすぎる」という問題点に着目した。そして、グループの話合いでは、利点として、「持ち運びが便利」「複数のカードを使える」等や、仕組み図から学んだ「支払い方法を選択できる」といった利点を引き出すことができた。問題点では「加盟店でしか使えない」という不便な面の他に「会費が付いたり、支払い回数が多くなると利息が高くなったりする」「どのぐらい使ったのか分からなくなる」などの購入しすぎによって生じる問題点も引き出すことができた。

その後、グループで話し合った結果を全体で発表し合い、資料２のように利点や問題点を表にまとめた。

利　点	問　題　点
・現金を持たなくても買い物ができる ・色々な支払い方法があり、自分で選択できる ・カード使用の限度額を自分で設定できる ・複数のカードを使用して買い物ができる ・持ち運びが手軽で便利である	・支払いによる回数を多くすると利息が増えていく ・利息がカード会社によって違う ・支払いのシステムが複雑になっている ・買い物をし過ぎて払えなくなる可能性がある ・紛失したら悪用される可能性がある

【資料２　全体の話合いで出された利点と問題点】

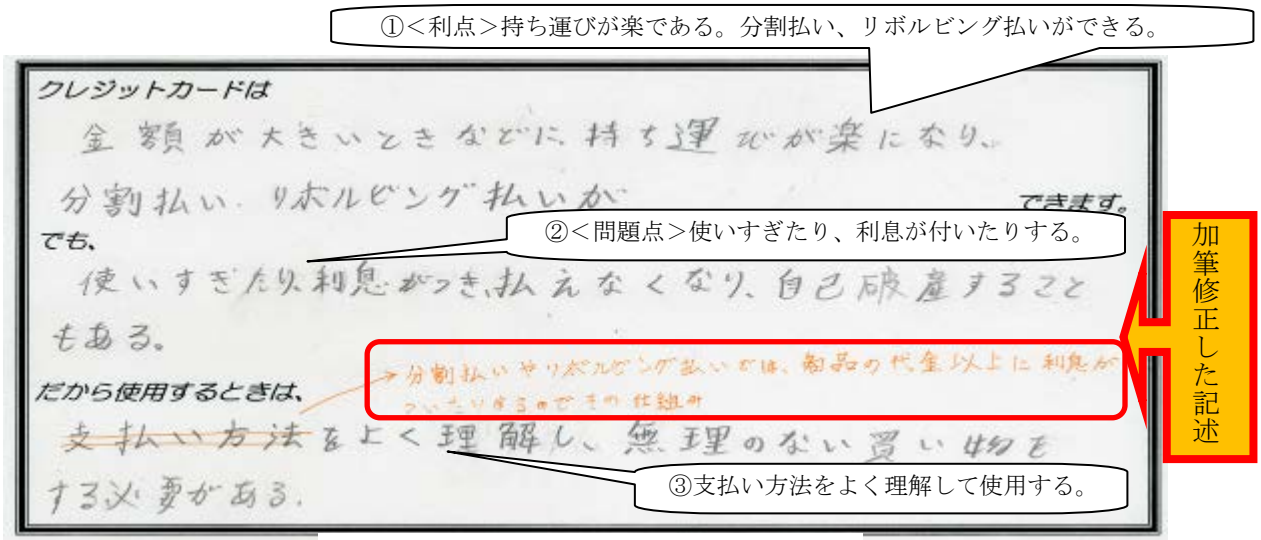
また、全体で発表し合う場面で「買い物をし過ぎて支払いができなくなると返済が免除されることがあること」を生徒に告げた。生徒から、「それは消費者に都合が良過ぎると思う」「そんなことがどうして許されるのか」という意見が出たので、「自己破産」について全体で調べるようにした。

グループや全体での話合いをしている間は、自分の考えに付け加えたいことや修正をしたいことがあるときはワークシートに書くように声かけをした。生徒Ａは、「使える限度額を自分で設定できる」という利点と「カードを悪用されるときがある」という危険性をワークシートに付け加え、自分の考えを広げていた。

生徒は、個人で考える、グループで考える、全体で考えるという学習形態を変えて話合いをもつことで、クレジットカードの多様な利点や問題点を知り、自分の考えを広げていった。また、利点と問題点を表にして対比させながら表現させたことで利点から問題点を考えたり、問題点から利点を見いだしたりする思考が進み、考える活動を活性化させることができた。

＜手だて２＞について

学習活動４において、クレジットカード払いの利点と問題点を関連させながら、取扱説明書を作成する活動を行った。取扱説明書の一番目には自分が一番重要視する利点、二番目にはその利点に対する問題点、三番目にはその両面を考慮してどのように利用していくのかについて記述するようにした。そして、その使用説明書を基に、他者と意見交換をしたり、アドバイスをもらったりして、より内容のある取扱説明書に修正していくようにした。



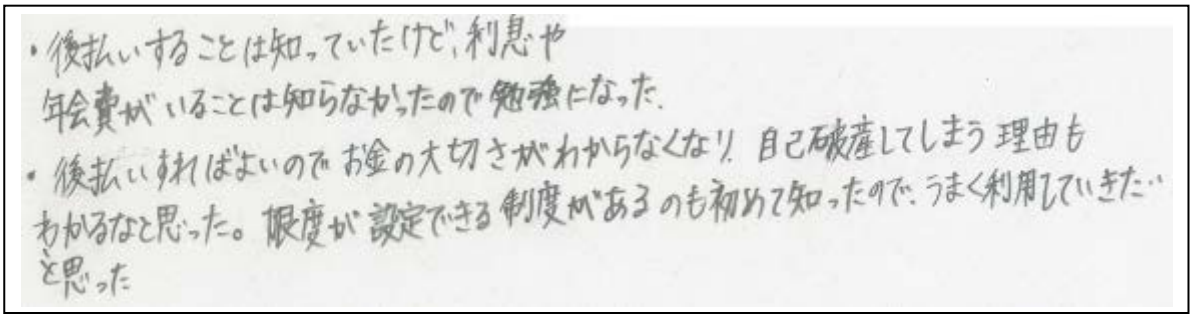
【資料３　生徒Ｂの取扱説明書】

資料３の生徒Ｂは、本時の学習の事前の実態調査の質問「クレジットカードについて知っていることを書いてください」に、「現金をもたなくても買い物ができる」という利点のみの回答をしていた生徒である。その生徒Ｂは、取扱説明書にカードによる買い物の手軽さと支払い方法が選択できる便利さ、それにより発生する利息にも触れ、問題点では、授業中に調べた「自己破産」を付け加えている。そして、隣の友達から「『支払いの方法をよく理解する』というところをもっと具体的に示すといい」というアドバイスをもらうと、「支払いの方法をよく理解する」に「分割払いやリボルビング払いでは、商品の代金以上に利息が付く」という記述を加えた。このように、クレジットカード払いについて、多面的・多角的にとらえることができるようになった。さらに、「支払いの仕組みを理解した上で購入し、無理のない消費生活を行うこと」に結び付けて考えることもできた。

これらの生徒の姿から、利点と問題点の両面からクレジットカードの使用を考えさせることにより、考えが深まった様子がうかがえる。

＜手だて３＞について

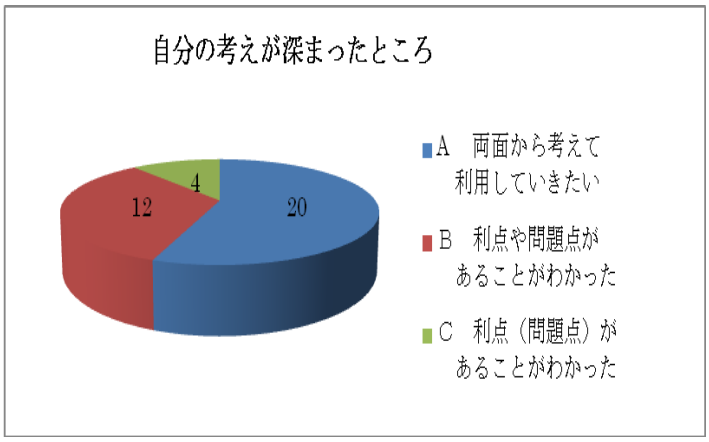
終末では、本時における振り返りをワークシートに書かせた。生徒の事前のアンケートの回答の内容とクレジットカードの使用を人に薦めるときの説明の内容を比べさせることにより、無理のない消費生活を営むための自分の考えが深まったことを自覚できるようにした。また、なぜ、深まったのか、考えさせることによって、事象を利点と問題点の両面から考察する価値を自覚できるようにした。


・後払いすることは知っていたけど、利息や
年会費がいることは知らなかったので勉強になった。
・後払いすればよいのでお金の大切さがわからなくなり自己破産してしまう理由も
わかるなと思った。限度が設定できる制度があるのも初めて知ったので、うまく利用していきたい
と思った

【資料４　生徒Ｃの振り返りシート】

資料４の生徒Ｃは、本時の学習において、「後払いできることは知っていたけれど、利息や年会費がいる」「自己破産しないように、限度が設定できる制度があることも初めて知ったのでクレジットカードを利用する際、うまく利用していきたい」とクレジットカードの利点と問題点を関連させながら無理のない消費生活を営みたいという考えを創り出している。

学級全体の生徒の振り返りの結果を資料５に示す。上記の生徒Ｃは、グラフのＡ（両面から考えて利用していきたい）に入る生徒である。３６人中２０名が、本時の学習を通して、利点と問題点の両面からクレジットカードの利用の仕方を考えることができるようになったことが分かる。また、グラフのＢ（利点と問題点があることが分かった）の１２名は、利点と問題点の両面があることに気付くことができた。



【資料５　生徒の振り返りの結果】

さらに振り返りでは、「なぜ、そのような考えができるようになったのか」という問いに対して、「利点や問題点について考えていったこと」と３６人中３６名が答えた。

これらの結果から、クレジットカード払

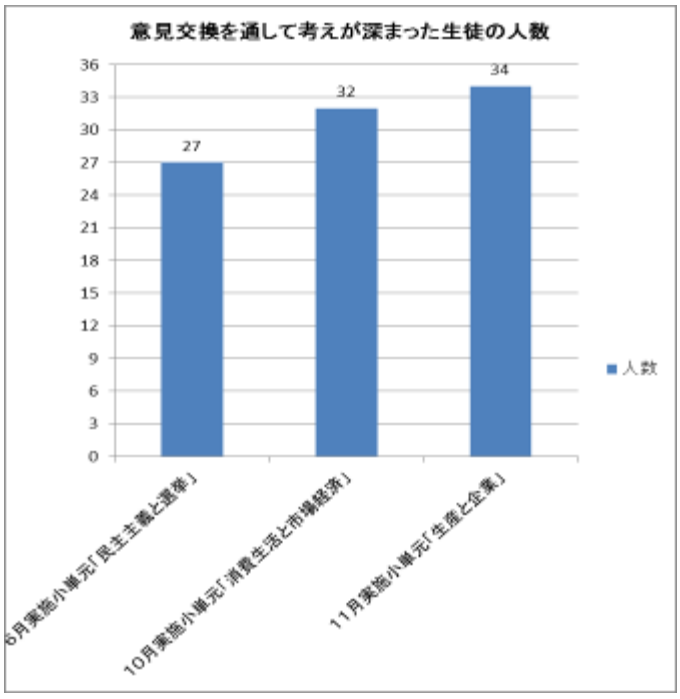
いの利点と問題点の両方についてワークシートによる振り返りが有効であったと考える。

Ⅲ　研究のまとめ

１　研究の成果

本単元「わたしたちの暮らしと経済」の学習に至るまでに、友達と意見交換する活動を積極的に取り入れ、様々な視点から社会的事象を考察する学習を行ってきた。

第一学期の単元「民主主義と選挙」では、「選挙」を若者の立場のみから考えがちであった生徒が、第二学期の単元「暮らしと経済」では、利点と問題点、需要と供給、暮らしと家計・企業・政府の働きなどを学ぶことにより、多角的・多面的に社会的事象の役割や意味、相互の関連を考えるようになってきた。例えば、本単元の終盤の「企業にこんなＣＳＲ（社会的責任）をやってほしい」の学習では、企業のＣＳＲを、「消費者へのよりよい製品・サービスの提供」だけでなく、「地球環境への配慮」「社会貢献活動」「誠実な顧客への対応」など様々な視点からグループで調べ、それをポスターにまとめて発表し合った。そして、他のグループと意見交換することによって新しいＣＳＲ案（企画書）をまとめて、視点を広げたり、深めたりした。



【資料６　意見交換を通して考えが深まった生徒の人数】

資料６は、生徒のワークシートの振り返りの記述を基に、意見交換を通して考えが深まった生徒の人数の合計をグラフ化したものである。資料６より、６月、１０月、１１月と人数が増加していることが分かる。

このように、生徒に社会的事象に対して資料を基に、他者と意見交換する活動によって自分の考えを深める力が身に付き、目指す姿が実現できてきたと考える。

２　今後の課題

手だて１の意見交換の活動では、グループで話した内容を、全体の話合いで十分に生かすことができなかった。グループの話合いの中で、視点を与え、自分たちの考えを分類・整理させてから他のグループと比較させるようにすれば、共通点や相違点に気付きやすくなり、生徒の発言を活発にすることができたと考える。

また、手だて２の成果物を作成する活動では、本時の学習の中心となる生徒相互による交流活動を全体でも行うべきであった。そうすれば、さらに考えを深めることができたのではないかと考える。

手だて３の考える力の深まりを自覚する振り返り活動については、学習前後の生徒の考えが大きく変容しているものがよいと考える。本時であれば、クレジットカードの取扱説明書を前時に作成しておき、本時の終盤に作成したものと比較させ、その考えの深まりを考えさせることで生徒は自分の考えの深まりを明確に自覚できたのではないかと考える。

また、「なぜ、考えが深まったのか」という見方・考え方を自覚させるためには、日常の授業の中で、「今の考えは、○○や□□の両方から考えたね」「○○と□□を関連させて考えたね」などの見方・考え方を教師が価値付けしたり、「いろいろな場合で考えてごらん」「▲▲から考えるとどうなのかな」など多様な見方・考え方を示していったりして、見方・考え方を広げていく必要があると考える。

＜参考文献＞

・　文部科学省　「中学校学習指導要領解説　社会科編」　平成２０年

・　小原友行・永田忠道　「思考力・判断力・表現力をつける中学社会授業モデル」明治図書　平成２３年